

# 教育同窓会 会報

- ・ 教育学部
- ・ 人間社会学域  
学校教育学類
- ・ 大学院教職実践研究科
- ・ 養護教諭特別科

発行：金沢大学 教育同窓会事務局

第 10 号 2020.3.22



## 「人間社会学域長を 務めております」

金沢大学人間社会学域長  
村井 淳志

### ■ 「学部」制から「学域・学類」制へ

金沢大学は2008年から「学域・学類」制に移行し、かつての「学部」は「学類」に、そして文系4学部（教育・文・法・経）から衣替えした4学類プラス新しく発足した2学類（国際・地域創造）の計6学類を束ねた「人間社会学域」がつけられました。OB/OGの方々や受験生には、ネーミング等あまり評判がよくないようですが、改編にいちいち文科省の許認可が必要な「学部」に比べ、「学類」を「学域」（=文科省の扱いではこれが「学部」）の中に置いた新システムでは、組織編成がかなり自由にできるようになりました。社会の変化がとりわけ急激な現代、本学による「学域・学類」制は、先見の明があったと思います。

### ■ 初代学域長の殉職

初代学域長には、教育学部長だった片桐和雄先生が着任されました。教育・旧法文・新設学類という毛色の違った組織を束ねる仕事は、中堅だった我々から見ても、相当な激務だと案じられました。片桐先生は1期2年で学域長を降りられ、2か月後にお亡くなりになったのです。癌でした。告知も受けられ、冬の間に奇麗に研究室を整理された上で逝かれたのです。葬儀の席で経緯を聞いた我々は、ただ茫然。まさに殉職と言える最後でした。

2代目・3代目の学域長は法学から選出され、やはり相当なご苦勞をされましたが、それでも徐々に、新しい組織の慣例が積み重ねられ、2期4年ずつの任期を全うされました。

そして学域発足10年目の節目である2018年4月から、私が4代目の学域長を務めています。学域長の選出ははじめ、学域に所属する教授ならだれでも名前を書いてよい自由投票でしたが、3代目選出時から「所属教授のうち、他の教授から推薦を受けた者」の中から選ぶ方法に変更され、事実上の立候補制となりました。私が立候補（形式的には学類長の守屋先生に推薦人になってもらい、書類を提出）したのは誰に推されたからでもありません。このままでは人間社会学域全体が、なかんずく学校教育学類もスクラップに遭うという危機感からです。その危機はまだ去っておらず、私も2020年4月より、2期目の学域長を務めることになりました。

### ■ 学校教育学類、スクラップの危機

学校教育学類はすでに、専任教員53名、学生

定員85名という、OB/OGの方々から見れば、信じられない規模にまで縮小を余儀なくさせられています。理由は言うまでもなく、子どもの減少です。OB/OGの方々には教育現場において肌で感じておられるでしょうが、少子化はすさまじい勢いで進行しています。2019年の出生数は86万人にまで落ち込み、初めて90万人を割り込みました。第2次ベビーブーマーが出産年齢を過ぎつつあり、もはや人口の回復は絶望的で、今後100年ほど、日本は人口減少が続くことが確定しつつあります。

こうした状況を受け、国立大学は深刻な改革圧力を受けています。財務省は「国立大学は86校も必要ない」と明言していますし、文科省も「人口減少下では現状維持イコール質の低下、改革を行わない国立大学は淘汰されても止むを得ない」という姿勢です。全国の教育学部は、18歳人口の減少より先に起きている小中学生の減少のため、他学部よりも強い改革・縮小圧力を受けていて、様々な実験に乗り出そうとしています。

### ■ 隣県教育学部との共同課程

2000年の「遠山プラン」は、広域の教育学部を1か所に集約しようという案でした。例えば東北地方は宮城教育大学だけにするとか。呼応して教育学部廃止を決めた山形大学に対して、山形県教委や県民が大反対した「山形の乱」は、関係者にはまだ記憶に新しい所です。その後も、埼玉大学と群馬大学が、重複する教育学部を集約しようとしてとん挫した「グンタマ」大学構想、鳥取大学が教育学部を廃止し、学生定員とスタッフをお隣の島根大学に移行させる「教員養成とゼロ免の交換」など、実に様々な「改革」がありました。教育学部縮小の試みはこの20年間、全国で止むことなく続いてきたのです。

2020年4月から始まる、宇都宮大学と群馬大学による「共同教育学部」の設置は、その最新バージョンです。要するに、1県1つの教育学部は必要ないし、義務付けられているスタッフも抱えられないので、2県で1つの教育学部にしましょう、という試みです。しかし実際に計画してみると、宇都宮と高崎は108キロも離れており、車なら1時間半、大宮乗り換えの新幹線でも1時間かかります。教員が移動するのも困難で、学生を移動させるのはまず不可能。テレビ会議システムを使った遠隔授業も計画されていますが、学生の学習意欲が低下するのは明らかです。全国の教育学部関係者は、両大学の試みがうまくいくかどうか、固唾を飲んで、見守っています。

こうした風圧は、すでに全国最小規模にまで縮小された金沢大学の学校教育学類にも、とりわけ厳しく吹き付けています。OB/OGの皆様におかれましても、ぜひ母校の動向に着目していただき、時には厳しい叱責をぜひ、お願いしたいと思っております。

## シリーズ 大学を訪ねて⑥

金沢大学人間社会学域学校教育学類

附属特別支援学校

校長 山本 仁



### 沿革

特殊学級を開設するにはまだ多くの困難を伴う時代、昭和24年5月当時の石川師範学校付属小学校内に、3名の児童で特殊学級が設立されました。この特殊学級は本県における草分けであり、全国的にみても地方の国立学校では最初の知的障害児を対象とした特殊学級でもありました。これを前身に、昭和39年4月付属養護学校として独立し、昭和42年に現在の東兼六町に新校舎が建設され移転しました。昭和39年には付属養護学校設置と呼応して大学教育学部に、養護学校教員養成課程の設置が認可されています。新校舎は2階に体育館、地階に作業場、さらに和室や多目的ホール、セルフサービスの食堂を設置するなど、当時としては斬新な施設でした。当初は小中学部のみを設置でしたが、教育を受ける期間を長くしてやりたいという保護者の要望が高まり、昭和41年保護者が独自でプレハブ教室を建て、無認可の別科コースとして1学級を設置しました。この時に「父母の会」が結成され、金沢における育成会活動の原動力となっています。その甲斐あって昭和44年には高等部3学級が認められ、小中高一貫教育が完成しました。現在は小学部18名、中学部18名、高等部24名、合計60名定員となっています。



その後、平成8年に日常生活訓練施設「すずかけの家」が新設、平成13年には耐震化に伴う校舎の大規模改修と体育館が新設され、現在に至ります。校名は、昭和63年に付属養護学校から附属養護学校に、平成19年に特殊教育（特別な場での教育）から特別支援教育（個々の教育的ニーズに応じた教育）への転換に合わせて金

沢大学教育学部附属特別支援学校に変更し、翌20年には大学の改組により金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校と変更されています。

また、昭和62年に保護者と教員が卒業生支援のための組織を結成（兼友親子のつどい）し、以来継続してその活動を行ってきましたが、長年にわたる功労が評価され、令和元年、文部科学大臣表彰を受けたところです。

### 教育実践と研究

特別支援教育の目標は「自立と社会参加」ですが、それを受けて本校の教育目標を「心身の発達に遅れや障害のある児童生徒に対して、その実態に即した指導を行うことにより、一人一人の全面的な発達をうながし、その子らしく精一杯生きる力を育てることをめざす」と定めています。時代と共に変化する知的障害児教育の内容や方法、障害の重度・多様化などに応じて、掲げる研究テーマや教育課程編成が変わっても、本校は一人一人の児童生徒の実態に即した教育、個々の自立や社会参加の在りようを大切に教育を一貫して行ってきました。特に平成20年度以降、一人一人の児童生徒の思いや希望を受け止め、それらを教育的ニーズに昇華させ、学習活動を通じて思いや希望の実現を目指すという、本校が大切にしてきた理念をより具体化する教育実践に取り組んでいます。それを基に平成25年度からは文部科学省の事業を積極的に受託し、キャリア教育研究や特別支援教育の課題解決に向けた実践研究に取り組み、その成果を全国に発信しています。また、最近は大学附属学校としての使命をさらに果たすべく、大学教員と共同・協力して教員養成のプログラム開発や知的障害児を対象とした先駆的な研究にも取り組み始めました。

### これからの学校の在り方

4年前より本校の教育活動を通じた「共生の地域づくり」「地域に必要とされる学校づくり」を目標に、防災学習を中心として地域協働活動を推進しています。この取組は新しい時代に求められる資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことと合致しています。今後も時代に求められる大学附属学校としての在り方を模索し、常に「カイゼン」していく学校組織でありたいと思います。





# 金沢大学体育同窓会70周年記念総会・記念祝賀会開催

2019年7月19日 ホテル金沢

2019年7月27日、ホテル金沢にて、金沢大学体育同窓会70周年記念総会および記念祝賀会が開催されました。

金沢大学体育同窓会は、昭和31年、「金沢大学教育学部体育科同窓会」として発足し、学部学科制から学域学類制への改組に対応するカタチで、「金沢大学体育同窓会」に名称変更、現在に至っています。同窓生は、昭和28年に卒業した1期から、2019年春に卒業した67期まで、2492名になります。

当日の総会ならびに記念祝賀会には、全国各地から210名あまりの同窓生(3期から67期まで)の参加がありました。また、記念祝賀会には金沢大学山崎光悦学長にご出席、御祝辞をいただきました。

乾杯後は、同じ時代を過ごした同窓生で昔話に花を咲かせました。そんな中、同窓生が一つになって、金沢大学体育科を振り返った場面が3つありました。

1つ目は、恩師からの挨拶。宮口尚義先生をはじめ14名の恩師の先生から、祝辞、叱咤激励の言葉をいただきました。



宮口尚義先生祝辞

2つ目は、近年、顕著な活躍をした同窓生の特別表彰。今回は、同窓会長が、3名の同窓生を表彰しました。一人目は、米田豊明氏(20期)。

米田氏は、約40年、UAE(アラブ首長国連邦)等における柔道の普及活動に取り組み、その



特賞受賞の二人

実績がスポーツ庁に認められ、2017年1月、スポーツ庁長官表彰を受賞。これは、スポーツ庁長官が選定する初めてのスポーツ庁長官表彰という快挙です。二人目は、両角友佑氏(55期)。両角氏は、2018年平昌オリンピック男子カーリング日本代表、8位入賞の立役者で、スキップとして活躍、日本カーリング選手権大会でも8度の制覇を成し遂げた方です。他にも、世界カーリング選手権4位(2016年)、7位(2017年)という輝かしい成績を収め、いまなお、第一線で日本のカーリング会を牽引しています。

三人目は、横川健氏(3期生)。横川氏は、本同窓会の萌芽期に、会長を務められた方です。5年前の65周年記念式典においても講演いただき、長きにわたり本同窓会を支えてくださっていることから、今回、宮口会長から功労者賞が贈られました。

3つ目は、体育科の歌の合唱。金沢大学体育科には、「金沢大学教育学部体育科の歌」があります。この体育科の歌を現役学生も交え、全員で熱唱。

『体育科の歌 —“ ああ北辰の冴ゆるとこ 風雪きびし北陸の古城に吾等新しき… ”』の歌詞ではじまる「体育科の歌」を歌い、金沢大学体育科の歴史の重みを感じました。

同窓会とはいえ、3期から67期までの同窓生が集まったので、金沢大学体育科での思い出もやエピソードも多様でした。ただ、恩師からの挨拶、同窓生の活躍の共有、体育科の歌の合唱は、そうした時間や空間を超えて、我々の「金沢大学体育科」を再認識する場になったように思います。



## ☆☆☆ 学友支援室からのお知らせ ☆☆☆

令和2年の第14回ホームカミングデイは、10月31日（土）に開催！  
卒業生・修了生の皆様、久しぶりに青春の学舎に寄りませんか！

昨年の第13回は、令和元年10月26日（土）、本学角間キャンパスにおいて、午前中はキャンパス見学会、午後は、歓迎式典、特別講演会、懇親交流会を開催しました。キャンパス見学会には71名、歓迎式典には215名、懇親交流会には183名の卒業生およびそのご家族等にご出席いただき、大変賑やかな1日になりました。

歓迎式典では、山崎光悦学長による歓迎挨拶、山出保金沢大学学友会会長の祝辞、福森義宏理事・副学長による金沢大学の近況報告、日本人学生(2名)による留学体験報告、そして今回初めての課外活動報告(ボート部)が披露されました。

特別講演では、ファイザー株式会社代表取締役社長 原田明久氏(昭和61年医学部医学科卒業)に、「“Own It”行動せよ～明日のために、今、できること」と題し、メディカルドクター(製薬会社内で働く医師)の役割とファイザー株式会社の企業目的、そしてそれを達成するために全社をあげて対応している内容について、詳しく説明があり、この考え方と行動規範は、金沢大学の今後のあるべき姿に通ずるものがありました。

夕刻から開始した懇親交流会では、山出会長の発声で乾杯しスタートしました。乾杯は、金沢大学生協オリジナルの日本酒で行われました。会場では、本学卒業生の女性4人組木管アンサンブル「ナチュラル・クインテット」による演奏で、懇親交流会を華やかに盛り上げていただきました。その後、恒例の揃いの法被に身を包んだ卒業生有志による四高寮歌「北の都」「南下軍の歌」の高唱もあり、最後は全員で「校歌」を歌い上げ、懇親交流会は大いに盛り上がりました。

次回、第14回金沢大学ホームカミングデイは、令和2年10月31日（土）に開催します。この前後に同期生やサークル仲間のみなさまとの同窓会の開催をご計画いただき、懐かしい母校にぜひお越しください。

○金沢大学学友支援室Webサイト（ホームカミングデイの情報も掲載）

[http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad\\_gakuyu/index.html](http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakuyu/index.html)

○学友支援ニュース・レター（学友支援室Webサイト内にPDF版を掲載）

同窓会の開催予定や報告、本学の行事・イベント等をご紹介します。

### 教育同窓会 会計決算報告(H30年度)

平成30年度 金沢大学教育同窓会 会計決算報告 (H30.4～31.3)

#### 【収入】

項目	金額(円)	備考
1 繰越金	1,777,146	
2 会費	1,416,068	29年度入学生71名(振込手数料込み) 特別会費4名
3 利子	15	
合計	3,193,229	

#### 【支出】

項目	金額(円)	備考
1 会議費	0	
2 通信費	16,205	住居変更連絡等料金後継郵便料 事務連絡費
3 事務用品費	15,039	印刷用紙、封筒印刷など
4 分担金	0	
5 印刷送費	1,062,514	会報No9 印刷、会報発送、振込手数料
6 慶祝費	147,000	30年度卒業祝い 図書カード(1,000円×147人)
7 その他	6,000	会報原稿執筆謝礼
合計	1,246,758	

収入総額 3,193,229 - 支出総額 1,246,758 = 1,946,471  
【差引残高】 1,946,471円は31年度事業に繰り越し

★臨時同窓会費(一口1,000円)にご協力ください★

【ゆうちょ銀行】 振替番号:00710-9-100435

加入者名:金沢大学教育同窓会

同窓会名簿の維持と会報発行事業のためにお願ひします

### ★同窓会情報をお寄せください★

同期会や研究室の同窓会などの開催予定や開催情報を、同封の返信用はがきで事務局までご一報ください。情報をお知りの方、どなたでも構いません。会報に同窓会情報として掲載します。幹事様のお名前をご連絡ください。

また、同窓会を開催するために、名簿などの情報が必要でしたら、事務局までお問い合わせ下さい。

【事務局】 〒920-1192 金沢市角間町

金沢大学事務局 学友支援室

Tel 076-264-5081

[gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp](mailto:gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp)

### 編集後記

昨年は令和の時代が始まり、今年は東京2020が開催されるという、新しい時の流れを感じます。ホームカミングデイに参加すると、このような中で、金沢大学は高等教育の先を見据えながら様々な改革を推進している様子が見えます。卒業生として、これからも母校の行く末に関心をもち続けたいものです。(副会長 澤野)